



日常食中のCs-137の経年変化

【解説】

この図は、日本各地の日常食中に含まれるCs-137の量(1人1日あたりの食事の中のCs-137量)について、1974年度から2008年度までの変化を表しています。Cs-137濃度はゆるやかに減少していましたが、1986年から1987年にかけてチェルノブイリ原子力発電所事故の影響により若干増加しました。

調査結果の出典